平成二五年十二月号

妻沼聖天日和（めぬま しょうでん）

佐怒賀正美

空つ風まだなり御利益の日和

浮彫鷲は聖天ぞ鷲摑みで救ふ

落葉径師恩のごとき風ひろふ

綿虫や軍荼利（ぐんだり）明王小滝懸け

八束句碑小楢落葉の降るとなく

平成二五年十一月号

歌

佐怒賀正美

迷ひ込む詩猟の向う秋薊

秋光やお絵かき部屋のやうな墓

渡り鳥神代の空も流れ込み

披きたる父らの歌や鰯雲

口中は秋澄むかたち父らの歌

平成二五年十月号

いなづま

佐怒賀正美

いなづまや鬼神の国をひと揺らし

エジプトの麝香聞きゐる月夜かな

秋風に罅めく光いまだ研ぐ

翼から折れし月光手をすべる

妖刀になりきる鮫のごと月光

平成二五年九月号

茜

佐怒賀正美

隠れ部屋めく放送室やかぶと虫

箱庭や岩窟王も遊ばせて

火取蛾も訪はぬ地底の月宮殿

馬鹿の花砂も嵐も打ち止みぬ

哥川碑や茜消しくる野分雲

平成二五年七・八月号

泉

佐怒賀正美

天寿あり泉を汚染してはならぬ

誕辰（たんしん）の芯なき髪を洗ひたる

脱原発脱中年や走り梅雨

陶工の墓訪ふ蝮出づる候（ころ）

名告り合ふ戦いま無し夜光虫

平成二五年六月号

青葉木菟

佐怒賀正美

祝・文挾夫佐恵さん（白寿・句集上梓・蛇笏賞受賞）

紫陽花や不易流行の白寿女史

聖五月沈思ゆたけき白寿の詩

麦秋の空来て白寿祝ぎあへる

白寿祝ぐ魑魅魍魎も蟇も来よ

吉報と知る寧けさの青葉木菟

平成二五年五月号

おこぼれ

佐怒賀正美

山吹や鬼ゐて鬼の妻やさし

鬼神恋ふ中年粘りつつ惜春

菜の花につかまり立ちの幼霊か

日月のおこぼれ吾と蝌蚪の国

寅さんの身巾に蝶をめぐらせる

平成二五年四月号

馬蹄形

佐怒賀正美

葦焼の炎が出合ふまで猛る

鳥を吐き虚を吐き葦野火の跋扈

地母神が顕(た)つ葦野火の馬蹄形

葦野火の煙に巻かれて骨つぽく

天の日子葦焼の灰繰り出せり

平成二五年三月号

隕石

佐怒賀正美

光年の果ての隕石爆ぜて春

沖のこゑ沖に遊ばせ雪中花

首打つや鵠の落とす胴間ごゑ

星そろふ梟の首回るたび

厩出し星もどんどん出てきたり

平成二五年一・二月号

巳年

佐怒賀正美

崩れずに廻る星座や蛇冬眠

祝白寿・文挟夫佐恵さん　二句

百たびの若水やらむ白駒（はくく）にも

白寿なるこころの芯や雪中花

追悼・森田フサ子さん

詩（うた）を子に遺し枯葉に包まるる

祝婚・長女蒔子

師走なり蜜月（ハネムーン）などとぬけぬけと